

## 最近の VHF 電波伝播異常観測による地震予報の事例

Resent case studies about earthquake forecast by VHF waves observation in Hokkaido region.

# 森谷 武男 [1]; 山本 勲 [2]; 茂木 透 [3]; 高田 真秀 [4]; 西脇 琴美 [5]

# Takeo Moriya[1]; Isao Yamamoto[2]; Toru Mogi[3]; Masamitsu Takada[4]; Kotomi Nishiwaki[5]

[1] 北大・理・地震火山観測センター; [2] 岡山理大・工・情報工学; [3] 北大・理・地震火山センター; [4] 北大・理・地震火山センター; [5] 北大・地震火山センター

[1] ISV., Hokkaido Univ.; [2] ice.ous; [3] Inst. Seismol. Volcanol., Hokkaido Univ.; [4] Inst. Seismology and Volvanology, Hokkaido Univ.; [5] Inst.Seismology and volcanology, Hokkaido Univ.

我々は、2002年11月からこの観測を始めて以来 VHF 波の伝播異常が地震と関係が深いことを示してきた。電波伝播異常は経験的に電波発信地周辺の地震発生が伝播異常を起こし、伝播異常の総継続時間 ( $T_e$ ) が後に起こる地震の最大震度 ( $I_{max}$ ) (地表の最大振幅) を予測させてくれることが分かった。ただし発生時間は前もって知ることはできないが「今起こる確率が最も高い」状態が発生まで続いていく。このような予報は可能なので異常が観測された場合には観測所内に情報発信を行っている。ここでは、2006年9月30日、同12月31日に発生した根室付近の地震などについて事例を示す。また観測を妨げる雑音の増加が問題になりつつある。信号と雑音との見分け方の事例も示す。